

第2回「地域しごと創生会議」 経済産業省の取組紹介

平成27年12月8日

経済産業副大臣 鈴木 淳司

経済産業省が取り組む地域活性化施策

- 地域経済の好循環拡大のためには、地域外から稼ぎ、地域内の消費拡大を促していくことが不可欠。
 - 経済産業省では、「まち・ひと・しごと創生本部」など関係府省庁と連携し、下記の取組を実施。
- ① 地域経済を牽引する地域の中小・中堅企業について、国内外の販路開拓支援などにより域外に物売る
 - ② 様々な地域資源の組合せにより地域の魅力を総合的に高め、外国人観光客など人の流れを呼び込む

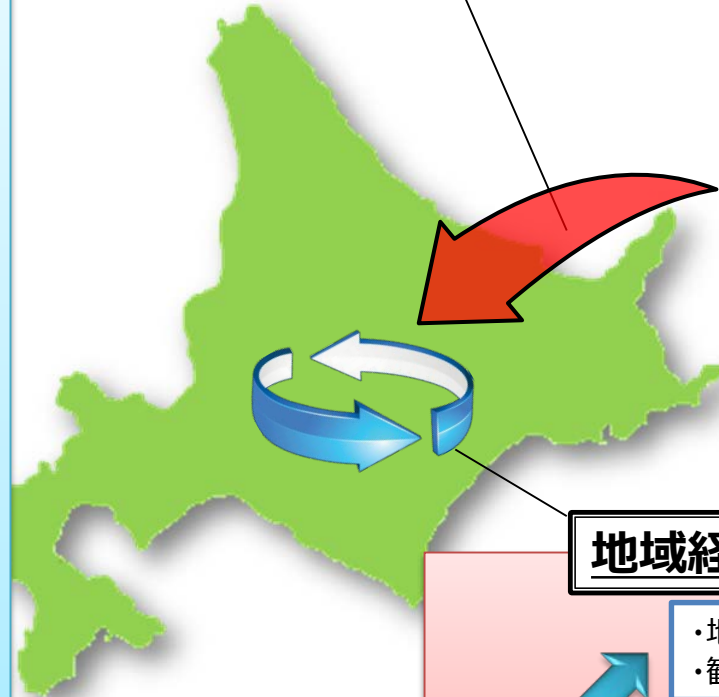
地域外から稼ぎ、人を呼び込む

① 地域企業の域外販路開拓等支援

- ・地域の農産品を大口で取り扱い、国内外へ販売する「**地域商社**」に対する新規販路開拓等の支援
- ・農業生産者と、加工、流通、販売システム事業者による**農商工連携**事業の支援 など

② 地域の魅力の総合的向上

- ・地域の観光資源を掘り起こし、様々な組み合わせることによって地域の魅力を向上させる取組の支援
- ・海外市場でも通用するブランドコンセプトの策定や商品開発の支援 など



地域経済の好循環拡大

- ・地域企業の域外販売増
- ・観光客による消費増加

- ・競争力の高い商品の開発
- ・地域の魅力の更なる向上

- ・企業や商店の成長による
域内設備投資や雇用増

具体的取組～地域商社・農商工連携～(「食」のバリューチェーン革新)

- 北海道には豊富な農林水産資源が存在。これら資源を活用する多様な加工業が道内のみならず国内各地に存在。外食やお土産ビジネスなど様々な業種・業態で食のバリューチェーン形成が進展。
- 一方、一次産業の労働力確保、生産の効率化、食のインバウンド需要の取り込みなど、時代の変化に即したバリューチェーンの革新への対応が必要。
- 生産者・系統流通と道内食関連企業の関係深化、卸売市場・空港荷役機能の強化を図り、食のバリューチェーンを革新する新事業及び国内外の需要を獲得できる中核企業を創出する。

	生産	加工	流通・販売
業種	一次産品（農産物等の素材）	加工食品・業務用食材	高度加工品（例：スイーツ、外食等）
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・一次産業労働力の確保 ・生産の効率化 	<ul style="list-style-type: none"> ・域外での加工事案の多さ ・加工用素材への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド力を活用した海外への販売 ・インバウンド需要への対応力不足



新事業	生産	加工	流通・販売
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 加工・卸業と連携した播種・収穫作業などの労働力の共有 ➢ 加工に必要な専用規格での生産、海外流通に必要な規格へスリム化 ➢ ホタテ貝自動生剥き機、牛群管理システム等の自動機械・IT導入 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 産地加工型の加工産業の集積促進 ➢ 一次産業と連携した素材調達 ➢ 生産現場と連携した加工方法の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 道外、海外展開に特化した第2ブランドの推進 ➢ ハラル対応をはじめとするインバウンド受入体制の整備 ➢ 輸出拡大・インバウンド拡大に向けた空港機能の強化

参考：地域商社等の事例

地域
商社

(株)キョクイチ <生鮮食品卸売>

食のハブ機能を活かした輸出拡大

- ・グループ売上高が1,000億円を超える北海道最大の生鮮品卸売業。
- ・北海道のあらゆる農水産物を幅広く調達・供給可能な同社の機能を活かし、多様な商材を扱う海外卸企業や市場等との商流を構築するため、北海道内の空港の輸出機能整備等による鮮度保持輸送や輸出専用食品開発の取組を並行して実施中。
- ・海外からニーズのある農産物、水産物、加工品に対して、大ロット・多品目かつワンストップでの輸出体制の整備を目指す。



空港
荷役

(株)札幌国際エアカーゴターミナル(SIACT)

食品輸出拡大に不可欠な空港荷役機能の拡充

- ・新千歳空港における国際航空貨物の荷役・保管・運搬業務を一手に担う第3セクター。
- ・近年、ホタテを中心とする活魚貝類の国際航空貨物による輸出が急増。千歳通関額（337億円）のうち食品が約34%を占め、2010年に1.3 t だったホタテの輸出量は、2014年には3,072 t と爆発的に増えている。



具体的取組～地域の魅力向上～（余市・仁木ワインツーリズム・プロジェクト）

- 北海道のワイン用ブドウ生産量は全国トップクラス。道内生産量の1/2は、余市町・仁木町エリアに集積。
- このエリアには現在、40戸を超える生産者と8軒のワイナリーが所在。地元のワイナリーが中心となり、余市・仁木エリアにワイナリーをはじめ、レストラン、ガーデン、ホテルなども備えた体験型テーマパークを集積させる計画。
- 「新規就農者」や「ワイナリー起業家」育成のために、人材育成事業も検討。
- 世界的スキーリゾート地域となっている近隣のニセコ町・倶知安町エリアとの連携も想定。
- 来年3月の北海道新幹線開業、その後の東京五輪開催等をにらみ、『魅力ある広域ツーリズム』を開発。
- 余市町・仁木町では、「地方創生」の主要プロジェクトとして、事業サポートを実施。

プロジェクト概要

【生産者】40戸超

・果樹生産



・ワイン用ぶどうの販売
・生産とワイナリーを双方経営

【ワイナリー】8軒 → 今後増加

・ワイン醸造
・レストラン経営
・ショップ運営 など

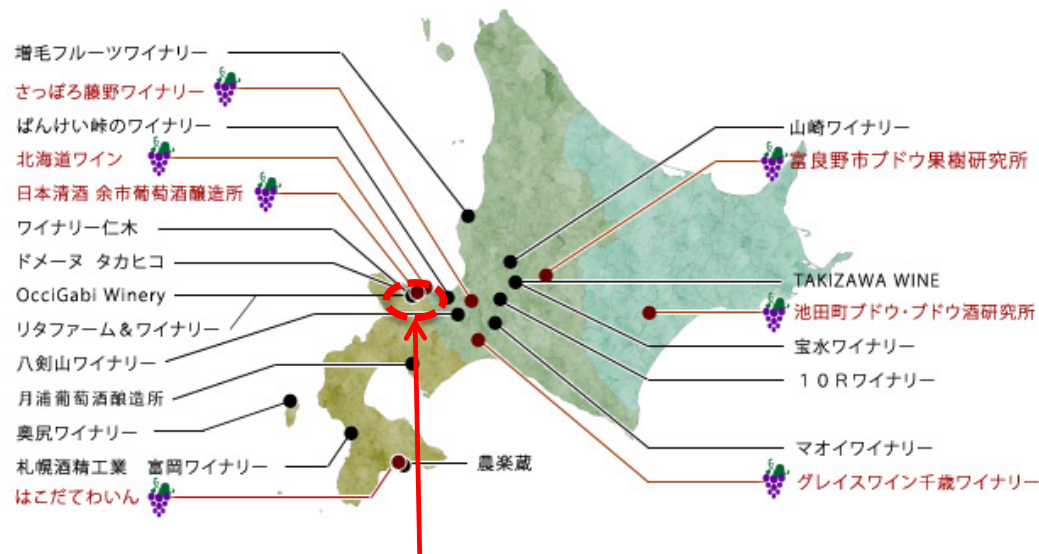
・6次産業化
・地域活性化



ニセコ町・倶知安町エリアとの連携による通年での観光客呼び込みも想定

※地方創生交付金(上乘せ分)採択
(ワインツーリズム開発・広報・人材育成事業:6,062万円)

北海道内の主なワイナリー(マップ)



余市町・仁木町エリア

北海道商工会議所連合会HPより